

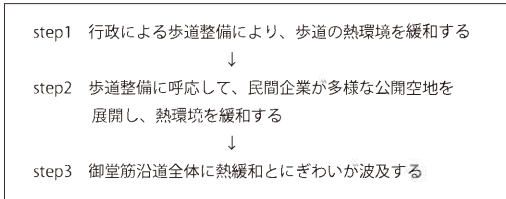


MIDOUSUJI GREEN CANYON

concept

官民一体の沿道緑化による熱環境緩和

御堂筋の現在の歩道と建て替え後のセットバック空地を、沿道企業が行政と協働で管理する新たな「緑地」とする。御堂筋に新たに生まれた緑に定期的な散水を行うことにより、蒸散効果から熱環境を緩和する。さらに、沿道の緑地の利用特性を企業にゆだねることでより多様な緑空間を創出し、都会のクルーズスポットとしての賑わいを生む。



design method

	<p>人の利用 熱環境緩和と多様な沿道環境から利用者が増加し、にぎわいが生まれる。</p> <p>修景物 沿道企業が目的に合わせて自由に展開する。歩道部では、共通デザインのファニチャーを展開する。</p> <p>植栽 イチョウ並木の歴史の景観を継承する。公開空地部は、イチョウと同じ落葉樹であり樹陰下の緑陰を楽しむやすいケヤキに誘導する。</p> <p>舗装 歩道と公開空地をグレー系の保水性舗装で統一し、沿道空間に一体性をもたせる。</p> <p>管理者 建築物の公開空地は民が管理し、沿道企業の工事に委ねる。歩道は通りとしての機能を維持するために、官が管理する。</p> <p>ゾーニング 旧線路車庫を歩道にし、旧歩道とセットバック空地を緑地にする。</p>
	<p>自然地面 (Green square)</p> <p>保水性舗装 (Grey square)</p>
	<p>民 (Blue square)</p> <p>官 (Red square)</p>
	<p>車道 (Black square)</p> <p>植栽帯 (Green square)</p> <p>歩道 (Grey square)</p> <p>緑地 (Light green square)</p> <p>建築 (White square)</p>

官と民が協力することにより、御堂筋沿道に涼感豊かな緑地が現れる。

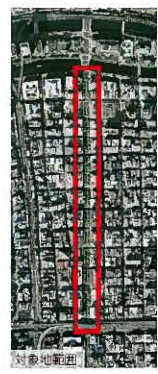
site

大阪市中央区 御堂筋 淀屋橋 - 本町

大阪市を梅田から難波へ南北に貫く御堂筋は昭和10年に完成した大阪のメインストリートである。4車線の高速車線と2車線の緩速車線の計6車線に加え、高速車線と緩速車線の間には幅4.5mの植栽帯が設けられている高幅員道路である。植栽帯には大阪府のシンボルであるイチョウが植えられている。

沿道建築物は、淀屋橋 - 本町間では「100尺規制」として高さ制限が設けられていたが、近年は高さ制限にも緩和措置がとられている。歩道からセットバックすることを条件に、高さ規制が31mから50mに緩和されている。

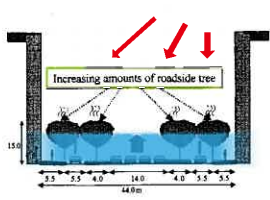
御堂筋のような都市キャンション空間ではヒートアイランド現象が顕著で、温熱環境が悪化している。



background

熱環境緩和シミュレーション

街路を覆う樹冠を増やすことによって、地上の平均放射温度は0.5～1.8℃低下し、緑量増加による蒸散効果増大により気温も0.2～0.4℃低下することがシミュレーション結果として報告されている。



沿道建築物

御堂筋沿道は現在も1960年代高度経済成長期に建てられたオフィスビルが多く残っている。これらは建て替え時期に差し掛かっており、今後建て替えが進むことが考えられる。



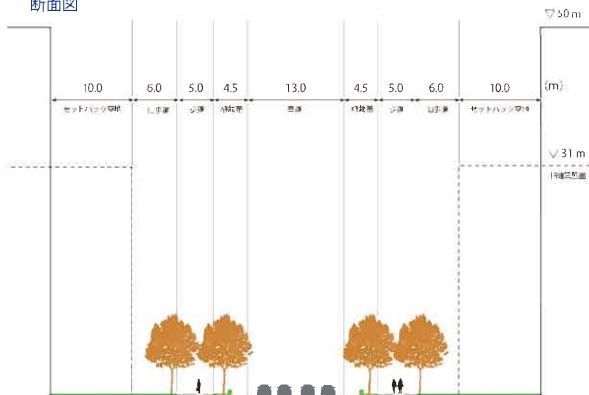
step1 行政による歩道整備



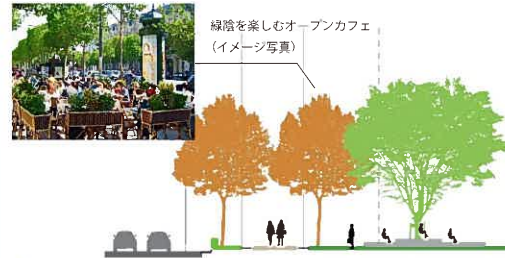
新たに緩速車線を歩道にすることにより、両側をイチョウに囲まれた美しいスカイラインが現れる。このスカイラインによって軸性が強まり、気持ちのいい抜けの空間となる。沿道の植栽帯には定期的に散水できる設備が整い、植栽の蒸散活動が活発化する。車道沿いには新たに垣根が設けられ、車道側からの排気が歩道に流れ込まない。

微気象が緩和された気持ちのいい街路が出現し、利用者の増加からにぎわいが生まれる。

断面図



step2 民間企業による公開空地の展開



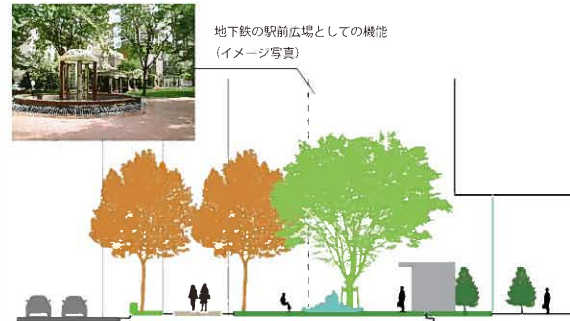
「商」の公開空地

緑が生み出す影と蒸散の涼感が人を呼び、商業を活性化させる。熱緩和が経済効果につながり、熱緩和の取り組みが波及する



低木の囲われ感により癒しを得る
ビジネスマンが高談などに利用する

従業員による散水、緑の管理
あえての手作業でにぎわいを生む

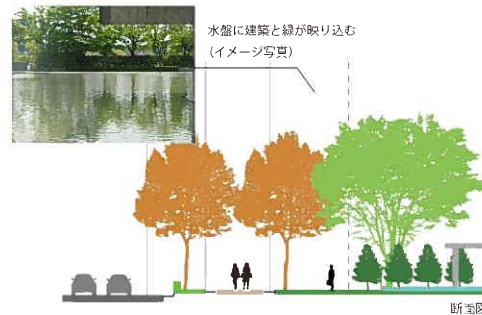


「公」の公開空地

地下鉄の駅の出口付近など、人通りが多い場所で公共性の高い広場空間を展開する。広場からアトリウムへ公開空地をつなげ、施設の利用を促進する。

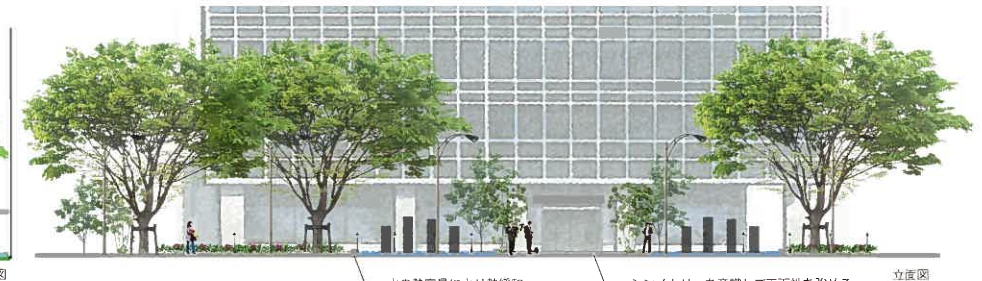


路地で販売していた弁当屋が広場で展開できる。広場はイベント利用も可能



「格」の公開空地

銀行など、格調高い建築の正面性を高める水盤と緑を展覧する。CSR的に熱緩和に取り組み、企業イメージが向上する。



step3 御堂筋沿道全体に熱緩和とにぎわいが波及

沿道建築の建て替えが完了し、公開空地の緑が広がる。御堂筋が緑の峡谷「グリーンキャニオン」となり、熱緩和とにぎわいが沿道全体に波及する。

